



木組みと漆喰を活かした古民家のコンバージョン —現代しっくい仕上げのワークショップも開催— 佐倉市吉見古民家改修プロジェクト

基本設計：設計組織 A・D・H / 設計・施工：ものづくり大学三原研究室・戸田研究室 /
左官施工：(株)小野創建工業 / 建築施工：(有)コバヤシ

はじめに

千葉県佐倉市の吉見古民家改修プロジェクトは、吉見光の子保育園に隣接する古民家を買取り、地域のコミュニケーションの場としてコンバージョンし、子育て支援施設や多目的室として活用する目的で行われた築約50年の古民家再生プロジェクトである。

計画がスタートしたのは3年前。日本キリスト教団ユーカリが丘教会の設計に携わった工学院大学の木下庸子先生が、その縁で吉見光の子保育園の設計に携わり、今回の古民家再生プロジェクトについても木下先生と法政大学の渡辺真理先生が所属する設計組織A・D・Hが依頼を受けた。ただ、地域ぐるみで利用する施設であれば、ワークショップ形式で改修を進めたほうが良いと木下先生と渡辺先生は提案。そこで埼玉県加須市の古民家でワークショップの経験のある、ものづくり大学技能工芸学部建設学科の三原斉先生に声がかかり、同じく建設学科木造建築・環境デザイン研究室の戸田都生男先生の研究室との4研究室体制で設計と施工の計画を進めることとなった。なお同プロジェクトでは戸田先生と三原先生が指導を行い、実務は同大学非常勤講師の小林靖史先生(有限会社コバヤシ代表取締役)と



▲築約50年の古民家のコンバージョンが行われた(写真は改修後)

4年で戸田研究室の地引智哉さん、三原研究室の小島遼平さん、西ノ谷鷹志さんが務めた。

設計・施工について

プロジェクトは助成金の活用や資金調達面で難航し、計画から3年後の2023年春から本格始動した。古民家再生